令和8年度 楽学プロジェクト　　講座番号　D05

「獣医師の仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕　釜谷　大輔　先生、佐々木　順哉子　先生（仙台市動物管理センター）
後藤　美佐　先生、福岡　房枝　先生、岩井　美和子　先生（NPO法人エーキューブ）
〔所属〕　仙台市動物管理センター　NPO法人エーキューブ

■ 参加人数　16　人　　講座担当者　阿部　圭太

「獣医師の仕事」では、仙台市動物管理センターの職員である釜谷大輔先生と佐々木順哉子先生、NPO法人エーキューブでボランティア活動されている後藤美佐先生、福岡房江先生、岩井美和子先生をお迎えし、獣医師の仕事について詳しくお話を聞きました。後半は、犬との触れ合い方や聴診の体験活動等を行い、獣医師の仕事について理解を深めることができました。

1.　獣医師の仕事についてのお話



釜谷先生より、獣医師の仕事について詳しく説明していただきました。獣医師とは、病院でペットの治療を行うイメージが強いですが、それ以外にも食の安全を守る、クマなど有害鳥獣への対応、動物の調査研究など多岐に渡るということを知り、こどもたちはとても驚いている様子でした。また、釜谷先生から、ゾウやライオンなど大型の動物を実際に治療した経験のお話を聞くことができました。こどもたちは、熱心にメモを取り、獣医師という仕事への理解を深めることができた様子でした。

2.　獣医師の体験①（犬との関わり方）



自分たちの生活の中で、1番身近な動物である犬との正しい触れ合い方について釜谷先生と後藤先生からお話がありました。3つの大切なこと①大声を出さない②急にさわったりしない③走らないをまずは必ず守ってほしいということでした。また、飼い主に挨拶をする際、手のひらをグーの形に握り、犬の鼻先に臭いを嗅がせることも大切であるとのことでした。実際に学んだことを活かして犬と触れ合い、こどもたちもとても楽しそうに活動することができました。

3.　獣医師の体験②（犬の聴診）



聴診の体験では、犬の胸部に聴診器を当てて心音を聞きました。普段の生活で聴診器を使うことがないため、最初は付けることに戸惑っている様子が見られましたが、慣れてくると犬を緊張させないように、参加者が優しく話し掛ける姿がとても印象的でした。それと同時に、話をすることができない動物とコミュニケーションを取る難しさも感じていたようです。獣医師の仕事の一端に触れ、充実した時間を過ごすことができました。

4.　まとめ

「獣医師は、動物の命を守る大切な仕事です。動物は自分で体の不調を伝えることができないため、動物の様子をよく観察し、飼い主から詳しく話を聞いて状態を正しく判断することが重要です。そのため、獣医師には、①専門的な知識と学び続ける姿勢、②飼い主と信頼関係を築くための高いコミュニケーション能力、③冷静に適切な判断を行うための強い精神力と判断力が求められます。また、人と動物が健康に共生できる社会を目指す「ワンヘルス」の考え方を大切にすることも重要な役割です。」というメッセージをいただきました。

5.　児童生徒の感想紹介

○ 将来、獣医師になりたいと思いました。　（西多賀小　5年生）

○ 獣医師になるためにどんなことをすればよいのか知れてよかったです。　（大野田小　6年生）

令和8年度 楽学プロジェクト　　講座番号 D06

「建築家の仕事」活動紹介

■ 講師:〔氏名〕　犬飼 崇典 先生 福島 直人 先生 門脇 悠 先生
佐々木 結 先生 阿部 佳穂 先生 菅井 笙 先生
〔所属〕　株式会社 関・空間設計

■ 参加人数　30 人　　講座担当者　髙野 剛

株式会社 関・空間設計より6名の講師をお迎えし、建築家の仕事についての講座を開催しました。前半はクイズを交えながら仕事内容や役割について楽しくお話しいただき、後半はグループでの体験活動を実施しました。仲間と協力しながら体験に取り組むことで、建築の仕事の面白さと魅力に直に触れる貴重な機会となりました。

1. 建築家の仕事についてのお話『Spirit of Place』

講師より、ユニークなデザインの集合住宅やオフィスビルなどをクイズ形式で紹介していただき、建築物の面白さや魅力に触れることができました。また、関・空間設計が大切にしている「Spirit of Place」という言葉のもと、人々の意見を聞くことや歴史・風土になじむ建築、100年後へつなぐ建物づくりといった理念についてお話しいただきました。富谷市の「とみやど」や仙台市の「東六番丁小学校」など具体的な施設を例に、計画から完成までのストーリーや人々の思いが込められていることを詳しく教えていただきました。



2. グループでの体験実習『体で測ろう！』

後半の体験実習では、身の回りのものや空間の大きさを知ることの大切さを踏まえ、自分の体を使った計測活動に挑戦しました。まずは、手のひらのサイズや両腕を広げた長さなどをメジャーで計測。その「自分たちの体のサイズ」を活用し、メジャーを使わずに椅子や長机、扉、さらにはバドミントンコートの大きさまで、グループで知恵を出し合い声を掛け合いながら測り進めました。身体感覚を通して空間のスケール感を楽しく学び、建築家の視点を体感する貴重な機会となりました。



3. 質疑応答から

Q. 建築家になって、よかったことはどんなことですか？
A. いろんな場所に仕事で行けることです。また、いろんな人に出会うことで、様々な仕事の人と話せたことです。
Q. 設計図をきちんと理解して、建物を建てていくことは難しいことですか？
A. 難しいことです。しかし、だからこそ、やりがいがあるのです。



4. まとめ

建物をひとつ創る裏側には、創る人、使う人、地域の人など、たくさんの人々の関わりがあります。だからこそ、周りの人の話に深く耳を傾けて設計することが何よりも大切だと教えていただきました。図面を引き、形にしていく作業には苦労もありますが、使ってくれる人の笑顔や、自分の考えた空間が実際に完成した瞬間に、かけがえのない喜びとやりがいがあることを教わりました。

5. 児童生徒の感想紹介

○ 話を聞いて、作る方もうれしいことが伝わりました。自分も建物を作って、見た人が笑顔になってほしいと思いました。
（上杉山通小 6年生）

○ SOPというルールを、大切にしていることが分かりました。やりがいをしっかりと見つけて、仕事を続けているのがすごいと思いました。
（幸町中 1年生）

令和8年度 楽学プロジェクト　　講座番号　D07

「キャビンアテンダントの仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕　**和田　みなみ　先生**
〔所属〕　**アイベックスエアラインズ株式会社**

■ 参加人数　21　人　　講座担当者　髙平　吉康

キャビンアテンダントの仕事では、アイベックスエアラインズで勤務されている和田みなみ先生を講師としてお迎えし、キャビンアテンダントの仕事内容についてお話を聞きました。機内アナウンスや接客対応の体験活動等を行い、キャビンアテンダントの仕事に直に触れることができました。こどもたちは仕事のやりがいや責任について理解を深める貴重な機会となりました。

1.　キャビンアテンダントに必要なことのお話

キャビンアテンダントにとって大切なことは、コミュニケーション能力であるというお話がありました。そのため、こどもたちはコミュニケーション訓練として、3人1組になり、機長役とキャビンアテンダント役に分かれて活動しました。背中合わせの状態で、紙に描かれたイラストの内容を言葉だけで相手に伝えるという体験を行いました。



2.　緊急保安訓練の体験

キャビンアテンダントの重要な仕事の一つとして、非常時の対応（保安業務）について教えていただきました。お客様の安全を守るため、非常時にも冷静に行動できるよう、日頃から多くの訓練を重ねていることを学びました。

また、実演では緊急時に使用するライフベストを着用し、代表のこどもたちが実際にベストが膨らむ様子を体験しました。ライフベストが膨らむ際には大きな音がするため、参加したこどもたちは驚いた様子でした。



3.　機内アナウンスの体験

アナウンスの体験では、実際に使用しているアナウンスの内容を教えていただきました。その後、こどもたちはマイクを使って機内アナウンスに挑戦しました。聞き取りやすい声の大きさや話す速さを意識しながら、一人一人が乗客に情報を伝える体験をすることができました。初めは緊張した様子も見られましたが、だんだんと慣れ乗客へ正確で分かりやすく情報を伝える力が求められていることを学びました。



4.　まとめ

今回の講座では、将来キャビンアテンダントになりたいこどもが多く参加していた印象でした。質疑応答の時間では多くのこどもたちが挙手をして、講師の先生へ質問していました。華やかなイメージのキャビンアテンダントですが、緊急時の訓練の様子や、その厳しさをこどもたちに伝えていただきました。しかし、日本各地に行き素晴らしい景色を見ることや、お客様から感謝を伝えられるなどのやりがいも多く感じられる職業だと教えていただきました。

5.　児童生徒の感想紹介

○ 笑顔のうらには努力や、忙しさがかくれていて、見えないところでたくさん支えてくれていることがわかった。（上杉山通小　6年生）

○ キャビンアテンダントになるためにはコミュニケーション能力と英語力が必要だと知ることができました。　（東北学院中　1年生）

令和8年度 楽学プロジェクト　　講座番号 D09

「助産師の仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕　**中鉢 路子 先生、小野寺 愛 先生、遠藤 帆華 先生**
〔所属〕　**仙台医療センター母子医療センター**

■ 参加人数　18 人　　講座担当者 菅原 浩江

仙台医療センター母子医療センターから助産師の中鉢路子先生、小野寺愛先生、遠藤帆華先生をお迎えし、助産師の仕事について学びました。

1. 助産師の仕事についてのお話～助産師と看護師の違い～



「皆さんは自分の母子手帳を見たことはありますか？」中鉢先生の問いかけから講座がスタートしました。母子手帳は産まれたときの身長、体重の記録だけでなく、毎日の発育の変化や嬉しかったこと、困ったことなど、皆さんの成長が軌跡としてたくさん詰まっています。「改めて振り返ってみるのもいいですね。」というお話がありました。助産師は看護師の資格に加えて免許が必要で、正常なお産で、赤ちゃんを取り上げることができます。

2. 模擬実演 装着，早着替え



講師の先生は白衣、アシスタントの先生は青色の制服でいらっしゃいました。通常勤務は白衣、分娩室では青色の制服を着用します。理由は白衣だと血液の赤が目立ってしまうからです。

模擬実演では実際にエプロンやフェイスガード，手袋などを装着するところを見せていただきました。何度も手の消毒を重ねながらアッという間に変身。瞬き厳禁の早技でした。

3. 模擬体験



聴診器を耳にはめて自分の心臓の音を聴いてみました。

新生児そっくりの大きさ、重さの赤ちゃん人形は「私にも抱っこさせて。」と大人気でした。

4. 質疑応答

Q：助産師になるためにはどのような勉強が必要ですか？
A：今、行っていること、全てが大事です。学校での勉強だけではなく、家庭生活も含め全部です。日常の生活が自分自身の糧となり、仕事に生かすことができます。
Q：妊婦さんへの励ましはどんなことに気を付けていますか？
A：言葉を大切に。相手の気持ちを考えて、どんな言葉でどう伝えるのか、思いやりの心を忘れずに寄り添います。

5. まとめ

助産師の仕事は生命の誕生に立ち会える素晴らしい仕事です。新たな家族を迎えるために妊婦健診だけでなく、母親学級では新米お父さんも体験学習に参加して、準備を整えます。また、退院してからも発育健診や心のサポートも継続します。お母さんが不安な気持ちにならないように毅然とした姿勢で責任感を持って対応しています。身体のケアだけでなく、心情面にも丁寧に寄り添います。不安を取り除き一緒に乗り越えられたときには仕事のやりがいを感じます。

6. 児童生徒の感想紹介

○ 助産師さんは家族の笑顔を見ることができる素敵な仕事だと感じました。学校生活も勉強も頑張ろうと思います。　（八木山中 3年）

○ 自分も生まれた時、たくさんの人に支えられてきたと知りました。「助産師」はやりがいのある仕事だと思いました。　（柳生中 2年）

令和8年度 楽学プロジェクト　　講座番号　D10

「パイロットの仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕　吉田　泰斗　先生，中村　智史　先生
〔所属〕　アイベックスエアラインズ株式会社

■ 参加人数　19　人　　講座担当者　奥山　祥彦

航空パイロットは、こどもたちに人気の職業の一つです。今回は、アイベックスエアラインズ株式会社から吉田泰斗先生と中村智史先生をお迎えし、操縦中の様子や仕事で使う道具、仕事のやりがいなどについてお話しいただきました。パイロットを目指すこどもたちは興味深く話を聞いていた様子で、大満足の時間となりました。

1.　パイロットの仕事についてのお話



初めに、飛行機を操縦していて、積乱雲が目の前に現れたとき、どう対処するかを隣の人と話し合いました。これは、普段の飛行機の操縦の際も行われていることで、「仲間と話し合ってどう対処するか決める」ことは、飛行機を安全に飛行させるためのとても大事なスキルなのだそうです。また、着陸の際の映像を見ながら、時折映像を止め、普段注意していることや大変なことをお話しいただきました。

2.　休憩中に



休憩時間には、講師の先生方が実際に使用している道具を見せていただきました。特にライセンスは、所持していなければ飛行機を操縦することができないため、決してなくしてはいけない大切なものだそうです。他にも、自分がどれだけ操縦してきたかを記録するフライトログブックや、飛行機の運航に使用するルートマニュアルなど、普段はなかなか目にすることのできない道具が並びました。休憩時間にも、これらの道具の周りには多くのこどもたちが集まり、興味深そうに見入っていました。また、先生方はこどもたちからの質問にも一つ一つ丁寧に答えてくださり、貴重な交流の時間となりました。

3.　仕事のやりがいについて



休憩の後には、講師の先生方お一人おひとりから、パイロットという仕事を目指したきっかけや仕事のやりがいについてお話をしていただきました。パイロットを目指したきっかけは、身近にパイロットがいたことや、飛行機の操縦には毎回異なる状況があり、その奥深さや面白さに魅力を感じたことだそうです。また、仕事のやりがいとして、大好きな飛行機を操縦しながらさまざまな場所へ行けることや、各地のおいしいものを味わえることが挙げられました。さらに、上空から見える星空の美しさや、悪天候の中でも仲間と協力し、安全にフライトを成し遂げたときの達成感も大きな魅力だとお話しされていました。先生方の体験談を通して、こどもたちはパイロットという仕事の魅力や責任の重さについて理解を深めることができました。

4.　将来の夢について

最後に、先生方から、これから成長していくこどもたちへ「大切なこと」についてメッセージをいただきました。それは、夢を「決めつけない」ことです。今、将来やりたいことがあり、その実現に向かって努力を続けていたとしても、思いどおりに叶わなかったり、途中で夢が変わったりすることがあるかもしれません。しかし、そのために積み重ねてきた努力が無駄になることはなく、将来を力強く生きていくための大切な力になるそうです。そのため、今の「好き」という気持ちを大切にし、「自分ならできる」と信じて挑戦し続けることが大切だと教えていただきました。講師の先生方からいただいた言葉は、こどもたちの心に深く響く、温かく力強いメッセージとなりました。

5.　児童生徒の感想紹介

○ 話を聞いて、おもしろそう、やってみたい、すごいなどいろいろな感情をもちました。初めて知れたことがたくさんありました。（加茂小　6年生）

○ パイロットになるにはコミュニケーション力が大事だと分かったので身近なことから大切にしていきたいです。自分の夢がかなわなかったとしても自分のやってきた努力は無駄にならないため、何事にも努力したいと思いました。（上杉山中学校　2年生）

令和8年度 楽学プロジェクト　　講座番号　D11

「看護師の仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕　**服部　千恵子　先生、浅田　真奈美　先生、梅崎　奈央　先生**
〔所属〕　**仙台厚生病院**

■ 参加人数　20　人　　講座担当者　高橋　由臣

「看護師の仕事」では、仙台厚生病院に勤務されている服部千恵子先生、浅田真奈美先生、梅崎奈央先生を講師としてお迎えし、看護師として患者さんと向き合う姿勢や病院で働く中でのそれぞれの役割分担、連携の仕方などを教えていただきました。

1.　看護師の仕事についてのお話

浅田先生と梅崎先生より、スライドの映像と実際の診療器具を使って酸素濃度測定と血圧測定、聴診器の使い方などについてお話をしていただきました。病気の不安を抱える患者さんに対してできるだけ心情に寄り添うこと、それぞれの患者さんがリラックスできるようなかかわり方をすること、事故なく安心安全に病院での生活が送れるようにサポートすることなど、看護師の仕事の中で大切なことについてお話していただきました。



2.　看護師の体験①（血圧測定、聴診器使用体験、手浴体験）

患者さんにどんな病気が隠れているか確認するために、指先で酸素濃度を計測したり聴診器で自分の心臓の鼓動を診察をするなど道具を実際に使用する体験をしました。血圧測定では患者さん役に深呼吸をしてもらい、姿勢を正し、腕に巻く測定器の位置を確認して計測を行いました。また、患者さんの手を洗う手浴の体験も行いました。お湯の温度はそれぞれ好みが違うので確認することや、手を清潔に保つことのほか、マッサージ効果や患者さんとお話を交わす中で、リラックス効果が高まることがわかりました。



3.　看護師の体験②（車椅子乗車体験）

患者さんが自由に移動したり、生活を送れるよう車椅子を使用します。安全に事故や怪我無く使用できるよう、車椅子に座るサポート、車椅子から降りるサポートの仕方を学びました。実際に車椅子に乗車すると、廊下の段差や走行スピードを患者さんの立場で体感することができました。安心して車椅子を使用するためにストッパーの確認や走行スピード管理の重要性を学びました。



4.　まとめ

看護師の仕事は、患者さんの気持ちを考え患者さんの立場になって寄り添うことが大事です。浅田先生は自分自身の病気で入院を経験し、看護師さんに不安な気持ちを聞き入れてもらったり、お世話されたことで助けられたそうです。看護師は患者さんの病気を直接治すことはできません。亡くなってしまう患者さんもいます。忙しく辛い場面もありますが、患者さんんがその人らしく生きて行くサポートを続け、患者さんやご家族から信頼される存在でありたいというメッセージをいただきました。

5.　児童生徒の感想紹介

○ 患者さんの気持ちをしっかり考えて看護師の仕事をしてくれているのが嬉しかったです。　（柳生小　6年生）

○ 看護師は病気を治す事はできないけど、患者さんの心のケアをするとても大切なお仕事だと思いました。（上野山小　6年生）

令和8年度 楽学プロジェクト　　講座番号　D12

「農家の仕事」活動紹介

■ 講師：〔氏名〕　嶺岸　若夫　先生
　　〔所属〕　自営業

■ 参加人数　18　人　　講座担当者　牧田　雅至

「農家の仕事」では、仙台市太白区茂庭で農業を営む嶺岸若夫先生を講師にお迎えしました。おいしい野菜の作り方について、必要なモノ・栽培管理の方法を教えていただき、実技体験では実際に土に触れて野菜の種まきや植え付けなどもご指導いただきました。

1.　おいしい野菜の作り方



特に重要となる「土と肥料」について、バランスの良い配分の化学肥料と与え方、培養土の管理方法を具体例を交えて細かく解説していただきました。

良い野菜を作るコツとして「種・苗は信頼できるもの」を用意して、最初のスタートを良い状態にすることが生育に大きく影響することを解説していただくとともに、生育する環境の選び方についても具体的に教わりました。

2.　野菜作りにチャレンジ



実際に土に触れながら、野菜作りの作業にチャレンジしました。育苗パレットに自分たちで土を入れることから始めて、種まきや苗の移植を行いました。最初に学んだコツを踏まえて、最初は試行錯誤しながら嶺岸先生のお手本や周りの参加者をまねて徐々に慣れて指先を上手に使って作業できるようになりました。

育苗パレットは講座終了後に参加者が自宅に持ち帰り育てていくことになっています。病害虫への対応などについてもアドバイスがありました。

3.　質疑応答



Q：農業をやっていて大変な点→A：天候に左右されること
Q:農業をやっていて楽しい点→A:野菜を収穫した時
Q:安定した収入を得るコツ→A：未だに勉強中です
Q:農業の現状の課題→A:高齢化が進んで用水路の確保等の
　地域共同作業や農地以外の道路の草刈りができない
Q:開業時の初期費用→A:約30万（土地を耕す機械の購入）
Q:AIの活用→A:天候予想・草刈りロボット等で安全性を向上

4.　まとめ

今回の講座を通じて、おいしい野菜を育てる知識・技術を教えていただくとともに、年齢や経験に関係なく誰でも挑戦できる間口の広い職業でもあるということがわかりました。食卓に並ぶ野菜や果物が育つプロセスに直接関係する仕事であるため、参加者にとって興味深い内容だったようです。嶺岸先生からは「また様々な機会に皆さんとお会い出来ればと思います。」と温かい言葉で講座を締めくくっていただきました。

5.　児童生徒の感想紹介

○ 農家を選んで、くわしい情報を知れたし、もっと農家になりたい気持ちが多くなった。（田子小　6年生）

○ 今日知ったこと生かして作物を育ててみたい、もっと知りたいと思った。　（第二中　1年生）

令和8年度 楽学プロジェクト

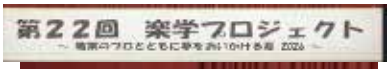
「仙台市ジュニアリーダー」活動紹介

■ 仙台市ジュニアリーダー（中学生・高校生）

■ 参加人数　68　人　　担当者　渡邉　洋史

ジュニアリーダー（JL）とは、仙台市教育委員会の支援を受け、各市民センターを拠点として活動している中学生・高校生の青少年ボランティアです。市内には36のジュニアリーダーサークルがあり、令和8年8月現在400人以上が登録しています。地域団体から要請を受け、地域行事でこどもたちが楽しめるゲームやレクリエーションを企画・運営するなどの活動を行っています。

1.　楽学プロジェクトでの活動内容





（1）参加者の誘導、受付・整列補助

ホールでの開会式に際して、参加者の受付や座席・トイレまでの誘導を行いました。

開会式終了後には、迷わずに移動できるように各会場まで案内を行いました。講座終了後には参加者が解散する際の整列や誘導補助、保護者への引き渡すまでの付き添いをしました。

（2）各講座の補助

ホールでは、全体に対して座りながらできる手遊びやクイズを行い参加者の緊張をほぐしました。各会場では、講座のはじめに簡単なレクリエーションでアイスブレイクをしました。講座中には、積極的にグループに入ったり、参加者に話しかけたりすることで、参加者同士・参加者と講師をつなぐ役割を担いました。











2.　参加したJLの感想

○講師ののお話を聞きながら、参加者と一緒に新しいことを学ぶことができました。活動を支える立場として関わるだけでなく、自分自身にとっても学びの多い時間となりました。

○受付や会場準備、講座中のサポートなど、さまざまな役割を経験することができました。周りを見ながら行動することの難しさも感じましたが、他のジュニアリーダーと協力して活動でき、良い経験になりました。

3.　スタッフ（講師）の感想紹介

受付や会場準備、アイスブレイク、講座中のサポートなど、ジュニアリーダーのみなさんが様々な場面で参加者に寄り添ってくれました。こどもたちにとって身近な存在として積極的に声を掛けてくれたことで、終始和やかな雰囲気の中で講座を進めることができました。





今年もありがとうございました。

【発行】 楽学プロジェクト委員会
（事務局）仙台市教育委員会 生涯学習部 生涯学習課
〒980-0011 仙台市青葉区上杉一丁目５番１２号
仙台市役所上杉分庁舎１０階
TEL 022-214-8887